

令和2年度 西日本高速道路株式会社事業評価監視委員会
議事要旨

1. 開催日時 令和2年12月2日(水) 10:00~12:00

2. 場 所 西日本高速道路株式会社 19階 会議室

3. 出席者

[委員] 宇野委員、帯野委員、正司委員、中瀬委員、
中野特別委員、平井特別委員

[会社側] 代表取締役社長 前川秀和、取締役専務執行役員 芝村善治、
取締役常務執行役員 村尾光弘、取締役常務執行役員 北村弘和 他

4. 議 事

①下記の5区間に関する再評価、事後評価について審議

《評価対象区間》

(再評価)

- ・一般国道42号 湯浅御坊道路
- ・近畿自動車道 松原那智勝浦線(御坊~南紀田辺)
- ・中国横断自動車道 姫路鳥取線(播磨新宮~山崎JCT)
- ・四国横断自動車道 阿南四万十線(徳島沖洲~徳島JCT)

(事後評価)

- ・東九州自動車道(北九州JCT~みやこ豊津、椎田南~宇佐)

■一般国道42号 湯浅御坊道路、近畿自動車道 松原那智勝浦線(御坊~南紀田辺)

➤ 主な意見

- ・紀南地方にとって、東京へのアクセスには南紀白浜空港は重要であり、空港と道路を一体として考える上で当該道路の時間信頼性向上が必要である。
- ・地方分散型社会の実現や企業にとって、地方と首都圏との往来は不可欠であり、当該道路の4車線化は、域内の観光振興、活性化だけでなく、道路と地方空港の一体化のためにも重要である。
- ・直接効果以外にも災害時の役割、観光への振興、物流の安定化などその他の効果の発現も期待される。
- ・生活の安全を守る上で、非常に大きな役割を持った道路である。
- ・当該事業の完成により、観光への更なる貢献が期待される。また環境保全対策も十分に行っている。

➤ 結果

- ・対応方針(原案)については了承する。

■中国横断自動車道 姫路鳥取線（播磨新宮～山崎 JCT）

➤ 主な意見

- ・令和2年7月豪雨によるのり面崩落対策追加のため、事業費が増額となるが、直接的・間接的といった多様な効果があるため、道路の重要性は変わらないと考える。

➤ 結果

- ・対応方針（原案）については了承する。

■四国横断自動車道 阿南四万十線（徳島沖洲～徳島 JCT）

➤ 主な意見

- ・吉野川の河口は、洪水による土砂移動と高波に伴う土砂流入により河床が常に変動しているため、河床変動の予測が非常に難しい。昨年の土砂移動に関しては、県南の立派な松林を有する大里海岸においても大量の土砂が流入・堆積し、松林の8割近くが枯死するというような状況であった。県内のほとんどの海岸部で大量の土砂堆積が起こったような非常に特殊な事態が発生したため、事業費増についてはやむを得ないものとする。
- ・浸食海岸として徳島県内で有名な今津坂野海岸の養浜事業に当該浚渫土が活用され、コスト縮減という点に加え、地域の防災、災害危険度を減ずるという点でも非常に有効な対応がなされた。
- ・徳島県民にとっては、まさに命の道であり、当該道路の整備を待望している。
- ・更なる浚渫土量増のリスクはないか。
 - 来年度の浚渫予測量についても、今回の実測結果に合わせて見込んでいる。（事務局回答）

➤ 結果

- ・対応方針（原案）については了承する。

■東九州自動車道（北九州 JCT～みやこ豊津、椎田南～宇佐）

➤ 主な意見

- ・ミルクラン方式の採用事例をふまえ、高速道路が利便性を増すことで、自動車からのCO2排出量が減るという観点も今後の評価に入れる検討を行って頂きたい。
- ・多自然居住地域の中で高速道路のSA・PAは、地域活性化に大きく貢献している。
- ・環境全体を十分に調査されている。このように環境全体の調査を行うことで、希少種・貴重種の保全につながるというロジックの説明が必要。
- ・暫定2車線では、低速車に付随する交通流の速度低下や災害時の脆弱性といった課題があることから4車線化が必要と考える。
- ・高速道路を活用したミルクラン方式の採用事例の他に、今後の共同物流の拡大にも高速道路が活用されることを期待している。
- ・観光振興において、グルメやショッピングで付加価値の高い商品をいかに提供できるかが重要。高速道路の休憩施設において商品を紹介・取扱いすることも、地域にとっては大切なことである。

➤ 結果

- ・対応方針（案）については了承する。